

# 1. 眼窩を構成していないものはどれか

- a) 頬骨
- b) 篩骨
- c) 上顎骨
- d) 鼻骨
- e) 蝶形骨

## 2. 眼窩底骨折の症状として 適切でないのはどれか

- a) 複視
- b) 眼窩下神経障害
- c) 髄液漏
- d) 血性鼻汁
- e) 眼球陥没

### 3. 単独の鼻骨骨折で正しいのはどれか。

- a) 眼球陥凹を生じる。
- b) 整復後の固定にギプスは用いない。
- c) 頬部の知覚鈍麻を生じない。
- d) 整復後の固定にタンポンガーゼは用いない。
- e) 新鮮期でも非観血的整復は困難である。

## 4. 単独の頬骨骨折で正しいのはどれか。

- a) 鼻出血は起こらない。
- b) 顎間固定は行わない。
- c) 開口障害は起こらない。
- d) 前額部の知覚鈍麻が起こる。
- e) 眼窩内を骨折線は通らない。

5. 顔面神経下顎縁枝の通る層はどれか。

- a) 真皮直下
- b) 脂肪中間層
- c) 広頸筋の直上
- d) 広頸筋の直下
- e) 顎二腹筋の直上

6. 下顎骨関節突起高位骨折(関節包内)  
で行うべき治療法はどれか。

- a) 非観血的(徒手)整復術
- b) プレート固定
- c) 鋼線結紮
- d) ピンニング
- e) 顎間固定

7. 口蓋裂例の上顎発育不全成人例で、  
上顎Le Fort I型骨切り後、7mmの上顎前方移動を  
行う場合、最も注意すべき機能障害はどれか。

- a) 開口障害
- b) 嚥下障害
- c) 眼球運動障害
- d) 鼻咽腔閉鎖機能不全
- e) 三叉神経第3枝領域知覚異常

## 8. 小耳症の記載で誤っているものはどれか。

- a) 伝音性難聴を伴うものが多い。
- b) 再建には肋軟骨が用いられる。
- c) 外耳道狭窄・閉鎖を合併しやすい。
- d) 発生頻度は4~500人に1人である。
- e) 第1第2鰓弓症候群の1症候として現れることがある。



9. 舟状頭蓋において早期癒合がみられる縫合はどれか。

- a) 前頭縫合
- b) 矢状縫合
- c) 冠状縫合
- d) 鱗状縫合
- e) 人字縫合

## 10. 顔面神経麻痺の症状で誤りはどれか

- a) 眉毛および上眼瞼部の下垂
- b) 下眼瞼の外反とそれに伴う兔眼
- c) 眼球運動制限と複視
- d) 鼻唇溝の消失
- e) 下口唇の変位